

光岡寺報

2013年 1,2月合併号
〒679-2323 兵庫県神崎郡
市川町甘地384
後藤明照・由美子（惟蓮）
Tel& fax0790-26-0162
Email kouenji_dayo@nifty.com
<http://Kouenji-hou.com/>
通信費年間 1000円



人の足を止めるのは、絶望ではなくて諦め
人の足を進めるのは、希望ではなく意志

ふくしま集団疎開裁判ブログより

仏教徒宣言（その104） 今年も早、一ヶ月が経てしまいました。年始から門徒さんの葬儀が続き、見送りの年明けとなりました。身内をなくす、親しい人をなくす、その時に、その方の人生、自分自身の人生が照らし出されます。少し立ち止まると、「口にする心」ではない時を大切に過ごしたいと思います。まもなく三・一から二年を迎えます。多くの人の命が奪われ、原発震災で、人類史始まって以来の大変な事態がこの国では続き続いています。被災者は捨て置かれ、救うものと救わないものに分断し、嘘と隠蔽の上に「復興」という新たなメッキを貼ろうとするこの国の姿があらわになりました。これでもいいのでしょうか？

昨年末、突然の衆議院の解散総選挙で、自民党が圧勝し自公政権に返り咲いた安倍内閣は、今まで自分たちが撒いてきた種が原因で、様々な問題が噴出しているのに、そんなことはまるで自分たちには責任がないが如く、強い日本を取り戻そうと、邁進し始めました。

一 昨年の三・一一福島原発事故後、今現在も尚、放射能を閉じ込めることができず、毎時一〇〇〇万ベクレルが環境に放出され続けています。その上、冷却の為に貯まる一方の汚染水は、貯蔵タンクが満杯になりそうであり、海へ垂れ流すことを東京電力は画策しているようですが、放射性物質の海洋投棄は国際条約（ロンドン条約）違反です。そして、ベクレル・ミリ（マイクロ）シーベルトセシウムヨウ素ストロンチウムプルトニウムという言葉が生活の中で普通に使われ、今、政府が言い始めているのが低線量被曝は身体に影響はないという「放射線被曝安全神話」です。かつては、「原発安全神話」を唱えることにより、国策として原発を推進増設してきました。そして、今度は、放射線安全安心神話を作り出すことで震災瓦礫の各地での焼却を可能にし、本来、放射性廃棄物として処理するような食べ物や飲み物までも流通させ、その上、国民を放射線管理区域に匹敵する所でも日常生活を強いるという、人権侵害も甚だしいことを強行しているのです。この「神話」を作り出す担い手となってしまうのが、新聞・テレビだけを見て、大広告の力に乗せられている私たち自身であると気付かなければなりません。

政府や行政の発表する意見、方針、施策や基準は、様々な専門家といわれる人たちの意見を掲げます。三・一一直後テレビなどで出てくるブルトニアは飲んでも安全といった東大教授や、一〇〇ミリシーベルト／年までは健康被害はないと震災直後福島で安全キャンペーンをした長崎大学の教授などがありました。後にそれは誤りであったと訂正されましたが、それによつて無用な被曝をした人はどれだけいたでしょう。

浄土真宗では全ての人間を「凡夫・二切善悪凡夫人」と教えます。専門家も凡夫、素人も凡夫です。誰もが凡夫であることを「凡夫」といは、無明、煩惱われらがみ、身にみちみちて欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむ、こころひまなくして、臨終の一念にいたるまで、とじまらず、きんえず、たえず、「一念多念文意」と明らかにされたのが親鸞聖人です。しかしその中でも、自らの人生をかけて本当のことを言おうとする専門家や有名人、一般人もおられます。その人たちは、何に、どのような出来事に出遇うことで違う方向に立つことができたのでしょうか。それをじっくり聞いてみたいと思います。

今まさに内外から放射能の影響を受け、日々傷つけられる生命の危機の中、その影響を敏感に受けやすい小さな命、幼き命を守ろうと、母親・父親が、縁ある人々が、心を悩まし、身を煩わし、苦悩されています。

阿弥陀仏は「苦悩の有情をすてずして」「救わんとこそ誓い」、私たち凡夫を諦めず、救うという意志を表明されて仏になられたのです。それが本願として、五濁悪時群生海「五つの濁りによつて本当のことが見えなくなりました悪時と言われる時。特に命濁」とい言葉で言い当っているように、自他の生命が軽んじられてしまった状態で、生命の尊さを見失い、右往左往と振り回され群れをなし生きる私に差し向けられているのです。同時にまた、海外の日本人を守るといつ大義名分で憲法を変え自衛隊を国防軍にし、派兵を止める現政権の姿を照らし「命に帰れ」と、私たちに与えられた念仏が方向を教えています。我々僧職にある者も様々な現実から「あり方」を問われています。

南無阿弥陀仏

釈明照

光円寺年間行事予定

春季・永代経会 五月二十六日(日)

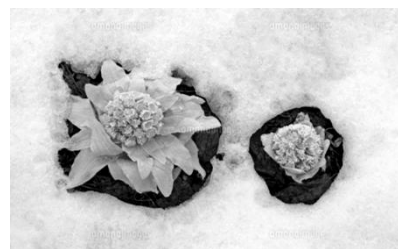
秋季・永代経会 九月二十九日(日)

門徒親睦旅行 十一月十七日(日)

報恩講 十二月七日(土)～八日(日)

前住職二十五回会 九月二十五(水)午前十一時より

本年もご予定のほどよろしく願っています。



極楽のあまり風プロジェクト：七組

昨年十月に始まった極楽のあまり風プロジェクト：七組は、被災地に野菜や生活用品などを送るプロジェクトです。これまでに十数人の方のご協力で福島、宮城に送ることができました。また、送料にあまり風募金△一人一ヶ月百円カンパも寄せていただき、新たに野菜の季節を待っています。送付には牛尾農場、ひびき福祉会様にご協力頂きました。また、組外からは姫路の一口ンサーエター協会様から、震災チャリティーコンサートの収益22,000円をご寄付いただきました。皆様のご協力で心より感謝申し上げます。

送付 野菜28箱 お米540キロ 生活用品4箱

寄付50,000円 送料等支出3,431円 残金22,273円

どなたも参加できます。ご連絡お待ちしています。☎090-3611-0162(後藤)